

▲▼▲第48回クリエイティブサロン (2017年 3月11日)開催報告▲▼▲

第1部講演会:「新興国への事業展開のポイント」

講師: 岡部聡氏 (東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)顧問、川崎汽船(株) 社外取締役)



科学では、理論で仮説をたてる「書斎科学」と、それを実証するための「実験科学」とが大変進んでいるが、世の中でどんなことが起こっているかという「野外科学」、すなわちフィールドサイエンスが欠けている。実験室の中のようにきちんとして整理できない、混沌とした物事をあるがままに理解し、その全体像を把握することにより世の中のニーズが見えてきて、社会の合意形成につながる。そのためのプロセスとして、私は「野外科学」を進めるべきだと考えている。この野外科学の考え方を手法として体系化させたものが、「KJ法」である。

私は「KJ法」創始者である川喜田先生の書生として寝食を共にし、その手法を学んだ。

相手の目線にあわせ、フィールドに飛び込んで問題点、ニーズを見つけ出すという考え方は、社会人になり新興国でのビジネスに取り組むうえで、大変参考になった。

インドネシアでは鉄板を折り曲げただけのボディという常識破りのアジアカー「キジャン」の開発。中国ではモータリゼーションの先駆けとなる自動車教習所の設立。現地政府と官民一体で行った中近東初の自動車整備学校の設立。アジア地域で開発から生産まで各国でネットワーク化した「IMV」。巨大市場インドへの参入。ビジネスを超えた信頼関係を築いた現地パートナー。などは野外的発想を実践できた具体的な好例となる出来事である。

このような経験から培った「新興国への事業展開のポイント」を整理してみると、パイオニアワークへの取り組み方が見えてくる。現地目線で物事を判断し、その時に最善と思われることに取り組んでいく。

『道を創る仕事 (パイオニアワーク)』の課題、テーマは身の回りにどこにでもある。企業人であれ、個人であれ、新興国でなくとも、新しいことにチャレンジしたい、自分で道を拓きたいと願う人にとって、私の実体験がなんらかの参考なればと思う。

(記事: 岡部聡)

第2部ワークショップ:「フェイクKJ法から本物のKJ法へ KJ法シミュレーションで学ぶ」

講師: 國藤進氏 (北陸先端科学技術大学院大学名誉教授)

文化人類学者川喜田二郎KJによって創生されたKJ法は、日本では1970年代に一大ブームを起こし普及していった。1980年代の日本の自動車産業を勉強したアメリカの研究者はKJ法の方法論であるW型問題解決学を吸収・発展し、デザイン思考という形態で普及していった。その際、KJ法の本質を分類技法ととらえ、発想技法としての本質を忘れてしまった。そこでKJの原著論文および三村修の修士論文から、KJ法の本質である発想のプロセスを学べる個人KJ法シミュレーションを体験していただいた。

時間の関係で、シミュレーションの後半を急いでしまったが、ボトムアップ的な「次元の発見が最後」という本質は、アンケートの集計でも大多数の人に分かってもらった。「次元の設定が最初」というトップダウン的なフェイクKJ法に踊らされてはならない。

(記事: 國藤進)

